

歯学部長の選任について

前田健康歯学部長の任期満了に伴い、歯学部長選考が行われ、前田健康教授が歯学部長に選考されました（平成29年4月1日付）。これに伴い、歯学部の執行部は以下のように選出されました。

歯学部長 前田健康

副歯学部長（評議員・学務） 小野和宏

副歯学部長（渉外・建物） 小野高裕

副歯学部長（広報・国際） 魚島勝美

副歯学部長（研究） 寺尾豊

副歯学部長・歯学科長 宮崎秀夫

学部長補佐 大内章嗣

口腔生命福祉学科長 葭原明弘

平成29年度概算要求事項の内示について

平成29年度政府予算案が決定されたことにより、文部科学省より歯学部に関係する項目として以下の内示がありました。

◇基幹運営費交付金（機能強化促進分）

- 戦略① 新潟大学型質保証による学位プログラムの推進を中核とした教学システム改革〈人材養成システム改革〉

- ◇（プロジェクト）現代社会ニーズに応える実践的口腔医療人育成プログラム等による質保証システム構築－質保証による国内標準化教育モデルの策定・実践－

- 戦略② 「環東アジア」地域教育研究拠点形成と地域社会への還元システム構築〈社

会貢献システム確立〉

- ◇（プロジェクト）国際・地域ネットワーク構築による現代社会的課題の対応－グローバル環境下で育む地域・国際医療福祉貢献－

- 戦略③ 脳・神経科学分野はじめ連携・融合研究促進のためのネットワーク型研究体制転換等によるイノベーション・システムの確立〈イノベーション創出環境醸成〉

- ◇（プロジェクト）若手研究者が集うレジリエンスな口腔保健教育研究拠点の形成－ネットワーク型教員組織の構築と実質化による総合的な機能強化－

歯学部銘板の設置について

歯学部は昨年歯学部創立50周年記念式典、祝賀会を開催し、その際、燕市^{ぎよくせんどう}玉川堂より、歯学部銘板（花田晃治名誉教授書）をご寄付いただきました。この度、槌起銅器で作成された歯学部銘板を改修工事が終了した歯学部玄関に掲げました。



国立台湾大学歯学部、オーストラリア・Charles Sturt University歯学部、タイ・チュラロンコン大学歯学部、香港大学歯学部との部局間交流協定締結について

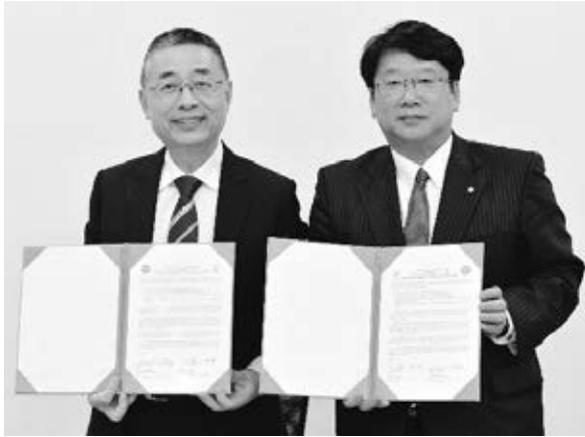
歯学部ではグローバル人材育成の目標の下、国際ネットワークの構築を進め、教員の学術交流、学生の交換留学を進めています。

この度、台湾・国立台湾大学歯学部、オーストラリア・Charles Sturt University歯学部から部局間交流協定締結の強い要望を受け、手続きを進めてきましたが、手続きが完了し、前田歯学部長、魚島副学部長（国際交流担当）、照沼教授が平成29年1月18日に台湾大学歯学部を、また前田歯学部長、魚島副学部長（国際交流担当）が平成29年2月6日にCharles Sturt University歯学部を訪問し、部局間交流協定を締結しました。また2月11日にはタイ・チュラロンコン大学歯学部

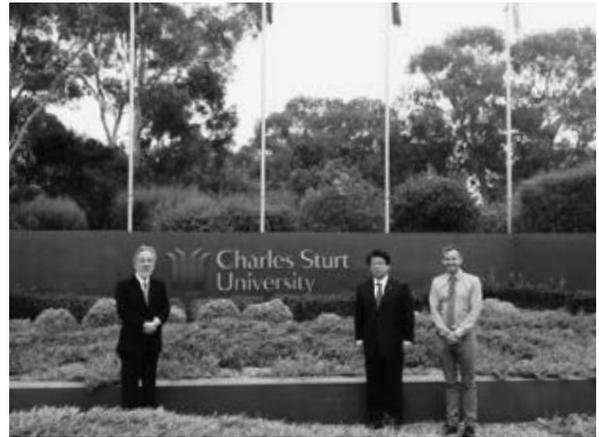
とさらに香港大学歯学部とも部局間交流協定を締結しました。

台湾大学およびチュラロンコン大学は台湾、タイのリーディング大学であり、またCharles Sturt University歯学部との締結は本学初めてのオーストラリアの大学との交流となります。この部局間交流協定には学生交流に関する事項も含まれており、これで、東南アジアからは始まった学生交流の輪が、欧米、南米さらには豪州と世界に広がっています。

またタイ・コンケン大学との大学間交流協定（責任部局：歯学部）も更新されました。



台湾大学歯学部との部局間交流協定調印式



オーストラリア・Charles Sturt University歯学部との部局間交流協定の様子



タイ・チュラロンコン大学歯学部との部局間交流協定調印式

国際シンポジウムの開催について (2月10日開催)

新潟大学歯学部は文部科学省機能強化経費の補助を受け、タイ王国プリンス オブ ソンクラ大学 (PSU) 歯学部と共催で、平成29年2月11、12日の両日、タイ王国サムイ島でInternational Symposium on Human Resources in Practical Ora Health and Treatmentを開催しました。C. Charoemratrate PSU歯学部長、前田歯学部長の開会挨拶のあと、3つのシンポジウム、口頭ならびにポスター発表、照沼教授、大峽教授、小野(高)教授らのKeynote Lectureが行われ、活発な議論が行われました。また12日にはインドネシア、台湾、タイ、ベトナム、ミャンマーの歯学部長が集まり、学生交流を含めた海

外交流についての意見交換を目的としたDean's meetingが開催されました。

本シンポジウムの目的の中には大学院生、若手教員の英語での発表能力の向上と海外ネットワーク形成があり、講演、質疑応答はすべて英語で行われました。これまでタイ、インドネシアで同様なシンポジウムを数回開催してきましたが、年々、英語でのプレゼンテーション能力が向上しているように思われると共に東南アジアの各歯学部の本歯学部に対する期待が年々高まっている様子がうかがえました。東南アジアの歯学部長からは次年度以降も継続して本シンポジウムの開催希望が寄せられています。



さくらサイエンスプランの採択

科学技術振興機構（JST）は産学官の緊密な連携により、優秀なアジア地域の青少年が日本を短期に訪問し、未来を担うアジア地域と日本の青少年が科学技術の分野で交流を深めることを目指す「日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）」を実施しています（<https://ssp.jst.go.jp/outline/index.html>）。この度、摂食嚥下リハビリテーション学分野の井上誠教授が提案した「超高齢社会に求められる歯科医学研究Dental and orofacial research required in a super aged society」が平成28年度第3回募集に採択されました。

この取組は「世界的に高齢社会に向かっていく中で、歯科医療に求められるのは食べる機能をも

つ口腔の医療であると考え、その礎となる歯学研究について、新潟大学で行われている様々な研究を見学・体験する機会を与える」ものです。タイ・タマサート大学から2名、台湾・陽明大学から4名を招聘し、日本での研修の機会を与えるものです。計6名の研修生は平成29年2月1日～平成29年2月10日の間、来学し、井上教授以下摂食嚥下リハビリテーション学分野のスタッフのもと、最新の摂食嚥下リハビリテーションに関する研修を受け、帰国しました。井上教授は平成28年度日本学術振興会事業「ひらめきときめきサイエンス」にも採択されており、研究成果の社会発信に貢献する事業に単年度で2件採択されるという快挙となりました。

大学間連携共同教育推進事業 最終成果公開シンポジウムの開催について

新潟大学歯学部は平成24年度文部科学省 大学間連携共同教育推進事業に基幹校として採択され、東北大学歯学部、広島大学と共に「連携機能を活用した歯学教育高度化プログラム」を推進してきました。このプログラムは3大学の特色ある教育資源を提供し合い、特色ある歯学教育の補完により3大学歯学部教育の高度化を目指すもので、本年度が最終年度となります。本事業の最終成果公開シンポジウムが平成28年12月2日に新潟市のオークラホテル新潟で開催されました。シンポジウムでは5年間にわたる事業成果について数値目標の達成状況、卒業時の臨床能力担保への対

応、海外共同派遣事業、共同講義およびサマースクール開催等についての取組成果が発表され、学外外部評価委員およびステークホルダー委員との総合討論に加え、外部評価を受けました。本取組の一つである臨床技能評価の基本コンセプトおよび評価方法は、近い将来全国的に導入される予定の臨床実習後技能評価試験への基礎データとして提供されることとなっています。なお、本事業は昨年度の間中評価ではA評価、また今年度実施されたフォローアップ評価でも指摘事項がなく、順調に事業が進行しています。



前田歯学部長による事業成果説明



総合討論の様子

デンカ（株）、デンカ生研（株）との 研究交流会開催について

新潟大学は昨年、デンカ株式会社と包括連携協定を締結しました。この度、平成29年1月24日に新潟大学駅南キャンパスときめいとにおいて、新潟大学歯学部およびデンカ（株）、デンカ生研（株）との若手研究者交流会を開催しました。本

歯学部の研究ニーズの紹介を行うと共に、研究成果の企業化への道を探る初めての試みとなり、予定時間を大幅に超える活発な議論が交わされました。詳細については寺尾教授が寄稿していますので、ご参照下さい。

ミャンマー・ヤンゴン大学歯学部への 医療チーム派遣

新潟大学歯学部はミャンマー・ヤンゴン歯科大学と部局間交流協定を締結していますが、Their Kyu前学長、Shwe Toe学長より、ミャンマーで患者の多い口唇口蓋裂患者に対する医療支援が要望されていました。平成27年度より、顎顔面口腔外科学分野の高木律男教授と歯科麻酔学分野の瀬尾憲司教授による医療チームがミャンマーでの

医療支援活動を開始しました。今年度は平成28年12月19日から1週間ヤンゴンに滞在し、10例の手術を実施してきました。ミャンマーでは医薬品等が不足しており、いろいろな分野からの支援を必要としていますので、皆様方のご理解とご協力をお願い致します。

平成28年度科学研究費審査員表彰について

日本学術振興会は学術研究の振興を目的とした科学研究費の業務を行っており、また学術システム研究センターにおいては、審査終了後、審査の検証を行っています。この度、宮崎秀夫教授と寺

尾豊教授が平成28年度科学研究費審査員表彰をうけました (http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/26_hyosho/hyousyou_2016.html)。

学生支援に対する寄付について

このたび、佐藤泰助様（故人 歯学科三期生）の「新潟大学歯学部の学生の将来のために役立てていただきたい」という御遺志にもとづき、ご遺族の佐藤京子様より500万円が新潟大学歯学部に

寄附されました。

そのご厚意に対して深く感謝申し上げますとともに、今後、佐藤泰助奨学寄付金として歯学部学生の奨学及び援助に有効活用させていただきます。

留学生交流支援制度（短期受け入れプログラム及び短期派遣プログラム）の採択について

独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）が公募していた留学生交流支援制度の採択結果が通知されました。この事業はこれまでショートステイ・ショートビジット（SSSV）事業として展開されてきましたが、一昨年度より、新たに留学生交流支援制度として発足したものです。歯学部から短期派遣事業（短期研修・研究型）として「3大学歯学部協働による国際歯科医療人育成プログ

ラム」、「歯学部学生の世界展開力涵養支援によるグローバル人材養成プログラム」の2件が採択されました。

なお、本事業による奨学金受給には各種制限が設けられており、特に成績不良の学生には奨学金を支給できないこととなりましたので、短期留学希望者は成績向上に努めるようお願いします。